

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月7日現在

機関番号：12501

研究種目：研究活動スタート支援

研究期間：2012～2012

課題番号：24890037

研究課題名（和文） リフレクションを活用した新任期保健師の専門能力向上教育プログラム
開発の基礎研究研究課題名（英文） Basic research of educational program development of
the newly-appointed public health nurse who utilized reflection

研究代表者：

上田 修代 (UEDA NOBUYO)

千葉大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：40637526

研究成果の概要（和文）：新任期保健師のリフレクションを促進した内容の特徴を明らかにするために次の研究を行った。【方法】新任期保健師2名に面接調査の実施【倫理的配慮】当該所属機関の倫理審査委員会の承認を受けた。【結果】リフレクションが促進された内容を統合した結果＜感情の表出と共に浮き彫りになる詳細な実践の事実＞等7項目に整理された。【考察】リフレクションを促すには、事実の確認や不確かな感情の吟味の過程の促進が重要であった。

研究成果の概要（英文）：Characteristics of contents promoting reflection among newly-appointed public health nurses in community nursing. [Methods] Two public health nurses in their first year as public health nurses working for local governments. [Ethical considerations] The present study was approved by the ethics review board of the relevant organization. [Results] In addition, based on integration of the categories of contents that promoted reflection, a total of seven items were identified as follows: “detailed facts about nursing practice that come to light with the expression of feelings” et al. [Discussion] The characteristics of contents promoting reflection among newly-appointed public health nurses included repeated confirmation of facts and advancement of the process of investigation of uncertain feelings during the course of reflection.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2012年度	1,200,000	360,000	1,560,000
年度			
総計	1,200,000	360,000	1,560,000

研究分野：医歯薬学

科研費の分科・細目：看護学

キーワード：新任期保健師、リフレクション

1. 研究開始当初の背景

行政組織の中で働く保健師は、分散配置などにより、新任期から他職種の中で一人配置

という環境で仕事を進めている状況に置かれており、保健師の基盤となる能力が育ち難い現状にある。新任期は、キャリア発達にお

いて基礎をつくる重要な時期であり、近年諸外国ではリフレクションを活用した脳力開発が注目されている¹⁾。

リフレクションは、実践を振り返り吟味することで自身の考え方や価値観を見直す方法であり、看護実践の質向上のために重要である。しかし、保健師のリフレクションの研究は殆どなく²⁾、そのため、研究報告者が、博士研究において熟練保健師と中堅期保健師のリフレクションを構成する概念の解明というテーマで研究に取り組んだ。博士研究結果によって、熟練保健師と中堅期保健師のリフレクションを構成する概念は解明されたものの、新任期保健師のリフレクションの特徴等は解明されていなかった。リフレクションを活用した新任期保健師の専門能力向上教育プログラム開発のための基礎研究として、まず、新任期保健師のリフレクションを促進した内容の特徴を明らかにする必要がある。

2. 研究の目的

リフレクションを活用した新任期保健師の専門能力向上教育プログラム開発のために、まず、地域看護実践における新任期保健師のリフレクションを促進した内容の特徴を明らかにし、新任期保健師の専門能力を高めるためのリフレクションを促す方法の示唆を得ることを目的として本研究を行った。

3. 研究の方法

研究デザインは質的帰納的研究である。
研究参加者：行政保健師としての経験1年目の保健師2名である。

データ収集方法：まず、研究者がリフレクションを促す指針を作成した。そしてリフレクションを促す指針に基づいて、研究者と研究参加者との一対一の半構成的面接調査を、1回1時間程度、それぞれ4回実施

した。

調査期間：平成24年11月～平成25年2月であった。研究参加者の概要と面接総調査時間を表1に示す。また、リフレクションを促す指針を表2に示す。

調査項目：研究参加者の背景や、過去1か月間で印象に残った地域看護実践、印象に残った地域看護実践に対する思いや考え、感情等である。研究参加者への調査項目及び調査内容は、表3に示す。

分析方法：聴取した逐語録から、研究者と研究参加者との対話を文脈に沿って場面に区切った。そして、その場面の中から研究参加者が実践を振り返り内面的な吟味と探究の思考過程を辿り、対話によってリフレクションが促進されていると判断した語りの場면을特定した。そして、その場面のリフレクションの内容にカテゴリー名をつけ、類似性と相違性でまとめた後、全事例を統合した。そして、その中から新任期保健師のリフレクションを促す方法の示唆を得た。

表1 研究参加者の概要と総面接時間

研究参加者	年代	背景	所属自治体概要	総面接時間
A	20	市保健師 女性	人口約190000人、 関東地方	3時間56分0秒
B	20	市保健師 女性	人口約62000人、 関東地方	4時間8分59秒

【倫理的配慮】研究参加者に対し研究の主旨等を説明した上で協力の同意を得た。また当該所属機関の倫理審査委員会の承認を受けた。

表2 リフレクションを促す指針

- ①研究者と研究参加者は、お互いの経験を共有しながらも、お互いが責任を持った独立した立場で、リフレクションを行う存在であると認識することを目指す
- ②研究参加者が、自己の看護実践を形づくる準備性や価値観を自覚することを目指す
- ③研究参加者自身が、自己の看護実践を批判的に捉え、それを承認することを目指す
- ④研究参加者が、他の保健師の優れた実践や住民が持つ優れた技術や物事を成し得る力から学びを得ようとする姿勢を持つことを目指す
- ⑤研究参加者自身が、看護実践を行う姿勢として、地域住民と保健師とが互いの考えや思いを理解しあう姿勢を持つことを目指す
- ⑥研究参加者が、リフレクションを行い選択した結果を実践に移そうとする動機を持つことを目指す
- ⑦研究参加者が、自身で保健師としての発達課題を見出すことを目指す。

表3 研究参加者への調査項目及び調査内容

調査項目		調査内容
研究参加者の基本事項	基本属性	年齢、性別、教育背景など
	価値観・信念 地域看護実践への思い・考え	学習意欲、それまでの研修への参加状況と内容、参加して得たもの 他者の考えや多様な考えに対する対応、考え 地域看護実践への思い・考え 健康づくり活動を行う時の姿勢、態度、考え
地域看護実践の活動内容		地域看護実践の中で印象に残った事象や戸惑った事象、事象ごとの詳細な状況、事象ごとの保健師の気づき・判断・行動

4. 研究成果

【結果】リフレクションが促進された内容とリフレクションの流れについて述べる。

1) リフレクションが促進された内容

各研究参加者の分析結果を統合したところ、対話によってリフレクションが促進された話りの場面は27場面であった。また、リフレクションが促進された内容のカテゴリーを統合した結果、7項目に整理された。整理された7項目とリフレクションが促進された内容を表3に示す。

研究参加者の地域看護実践の事実が明確になる等の【感情の表出と共に浮き彫りになる詳細な実践の事実】、保健師としての本来の思いが表出される等の【気持ちを代弁されたことによる保健師としての思いの再確認】、

援助内容に対する保健師としての思いの確認等の【厳しいもしくは曖昧な問いかけに対する保健師として強まる自覚】、発言内容を再確認されたことによる思いの変化等の【発言内容を端的に問い直されたことによる実践に対する動機の強化】、過去の関わり方の理由を尋ねられたことによる実践へのイメージ等の【援助の具現化を尋ねられたことにより見出された課題】、地域看護実践を行う上で大事にしていることの再認識等の【実践を行う上で工夫していることや大事にしていることの再認識】、自己の実践の傾向を振り返り強みを知るや自己の癖や弱みを知る等の【自己の実践に対する強みと弱みの自覚をした上で生じた次なる実践への思い】であった。

表4 リフレクションが促進された内容

(小項目の後のアルファベットは研究参加者を示す)

項目	リフレクションが促進された内容
【感情の表出と共に浮き彫りになる詳細な実践の事実】	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもが周りからも気になるような泣きかたをしたり、泣く頻度も違っていたり、でやっぱり大変だったのかなってというのが。虐待はしてなくても、養育面でちょっと母親が大変だという情報があった。何かしら問題を抱えていた家庭だったのだろうとその通報が入って時に思った。そこに関わりを持ったのに何もできなかったってということで、改めて広場で関わった時もちょっと反省をして、その後電話をした時にやっぱりあの時の関わりがいけなかったなと思った。: A氏 ・やっぱり初めての電話は大事。今まで深く関わっていなかった方でも、先輩たちは上手に、聞いていると感じるので、母親があまり多くを話すタイプではなく、深く自分に触れて欲しくはないタイプなのかなと感じる時は、自然な流れで話を持っていくことが大切だと思うし、その技術が必要なのだと感じた。: A氏 ・最近手紙や訪問はしてほしくないという人がいる。自分から関わりを求めていない人がいる中で、無理に電話をして話をするというのは、関係性は良くならないので、電話ではなくて手紙で予防接種の連絡と一緒に一言書いてみる。何かあったときに相談しようと思ってもらえるようなことに繋がるのかなと思い最近手紙を書いている。A氏 ・例えば1歳子どもの子育てについて

	<p>尋ねられた時、一般的なところは教科書で学べるが、靴は何歳ぐらいから履かせるのかなど教科書には載っていないことが母親は気になる。実際に母親が一日どのように育児しているのか情報や知識を得る必要がある：A氏</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1階に展示物やチラシを置いている。そのチラシが減っていた時に、何か情報は住民に届いたのだと思う。：B氏 ・月別にテーマを決めた。先月は私が担当して生活習慣病予防をやらうと企画していた。せつかく秋だし、運動の秋にしようなど運動やメタボのチラシを集め、パネルもちょっと秋っぽく作成しクイズ も取り入れた。：B氏 ・できるだけ関係しているチラシを保健所に連絡してチラシをもらった。：B氏 ・私が健康教育をしている時の写真をもらった。またアンケートに、こういう事が分かりましたと書いてあったとき、伝えたかったことは伝わったのだなと思うと嬉しかった。：B氏 ・お寿司にたくさん醤油を付けていた。普段は外食が多いようだが、今日は、買って来たって言っていた。確か夕も全部買って来たものだと思う。：B氏 ・60代前半ぐらいの女性だった。しかし訪問したとき家族構成など、自分のことは殆ど語らなかつたため気になっている。上司から、年明けぐらいに訪問して、精密検査を受けましたかと聞いたらどうかと助言を受けたので、行こうかなと思っていた。：B氏 		<p>らなくても、そこでちょっと大変そうかなと思った人に関しては、そのあとまた電話をするなどして、どんどん関係性を作れると違って来る。またその後、1回では変わらなくても、その後繋がっていくと何か変わるかなと思う。：A氏</p>
<p>【気持ちを代弁されたことによる保健師としての思いの再確認】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・手紙を書いているのを先輩が見て、きっと母親は見てくれているよ、すごくいいと思うと先輩に言ってもらい、自分でもそのように思うようになったので、続けようと思った。：A氏 	<p>【援助の具現化を尋ねられたことによる見出された課題】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・その場で何となく終わらせるのではなく、しっかりと意識して関わるのがまず第1歩だと思っている。：A氏 ・相手のプライドを傷付けてしまった。ちょっと追い込んでしまったと思った。：B氏 ・短期間の間で何度も関わると嫌がられると思った。程よく忘れたいくらい、しかし期間を空けるのもよくないと思ひ、1ヶ月か2ヶ月くらい空けて連絡しようと思った。：B氏 ・その女性は、あまり自分の病気に関心がなく、生活面でも引きこもりがちだと感じたので、もう一度訪問しようと思う。：B氏
<p>【厳しいもしくは曖昧な問いかけに対する保健師として強まる自覚】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・あまり関係性が作れなかつたというのが自分の中でもある。ここからまた電話をして関わっていこうと思う。上手くいかないだろうという思いはあったけれど、それでもちゃんと支援になるのだということに納得をした。：A氏 ・何かしら大変さを抱えている人であっても、何かあった時には本当に電話しようと思ってもらえるようになりたいと思ったら、自分だったらきっと名前とだけ手書きの手紙よりも、自分で書いた手紙の方が印象に残ると思う。：A氏 ・お酒とたばこ両方も止めるのは無理だなと思ったので、当面の目標として病院受診をしてもらおうと思った。：B氏 	<p>【実践を行う上で工夫していることや大事にしていることの再認識】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・パソコンで書いた手紙も作ろうと思ったことがあったが、手間がかかって、自分で書く、手書きの方が良いと思ったので、手書きで書いている。：A氏 ・やっぱり知識はないといけなと思う。母親は話を聞くだけでなく、何かしらの答えを求めて聞いている。そこで1つ1つきちんと答えられるようにしておきたい。：A氏 ・ポスター作製のときは、どのようにしたら専門家でなくとも分かるような表現できるかなど考え工夫している。住民が、どのようなところに興味があるかということに気をつけている。：B氏
<p>【発言内容を端的に問い直されたことによる実践に対する動機強化】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・最初はあまり深く考えていなかった。しかし、関わる上でやっぱり自分が、よく思われた方がいいと思う。関わるなら関係良くあったほうが良いと思う。：A氏 ・話を聞いて、その1回の電話で変わ 	<p>【自己の実践に対する強みと弱みの自覚をした上で生じた次なる実践への思い】</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・10ヶ月の子におそらく無理なことを母さんは求めているという部分で、母親のその気持ち、母親はどうしてそれを書いたのか、本当に泣き止むと、怒ったら泣き止むと思って書いていたのか等、色々話をもっと広い範囲で話を聞きたいと思う。：A氏 ・自分が違っていたことに気づくことができる。そこで覚えることや、他の人に聞いたことによって別のことも一緒に知識として得ることのメリットがある。また、その次に同じ質問が来た時に自信をもって返せる。：A氏 ・会話などで、その雰囲気にならされてしまうこと。時々自分でもまあいいか、と自分にも流されてしまう。：B氏 ・ご主人が全然受診してくれないという訴えに、じゃあ私から言ったら何か変わりますかと尋ねた。また訪問することもできますと言ったら、ちょうど明日私も夫も休みなので来てくださって言われて訪問して、3人で話をしたということがあった。：B氏

2) リフレクションの流れ

リフレクションの流れは、リフレクショ

ンのきっかけを起点として、他者との関わりによって内容を吟味し、多くの情報に戸惑いながら、他者との関わりの中から、気づき等の内面的変化が起こり、看護実践の行動へとつながり、新たな価値観・信念を獲得し、保健師の準備性を変容させるといった循環があった。

リフレクションの流れは、予測できなかった住民の反応等の迷いや困難、もしくは看護実践の手がかりになる現象との出会いを、リフレクションのきっかけとして起点としていた。その迷いや困難の解決の手段を見出すために、地域の中の多くの情報を整理し、現象をありのままに捉えようとしていた。そして、住民等の信頼する人からの他者からの共感や応援、助言を受けて意見を取り込み、解決の手段を吟味していた。その後、住民の健康課題等の気づきや学びを得ていた。その後、看護実践の動機の強化や自信を得て看護実践に移し、更に新たな価値観を獲得し、保健師及び個人としての成長を実感し、保健師の準備性を変容させていくという循環の過程を経ていた。また、保健師の準備性は、実践の保健師経験と個人の生活の経験の両者から成る価値観・信念に影響を受けていた。

【考察】

新任期保健師のリフレクションの特徴について思考過程と思考内容の観点から述べる。次いで、リフレクションを促進した内容の特徴について述べる。

1. 地域看護実践における新任期保健師のリフレクションの特徴

1) 新任期保健師のリフレクションにおける思考過程の特徴

(1) 気にかかる現象を内面的吟味する思考過程

リフレクションの流れは、リフレクシ

ンのきっかけに遭遇し、それに対する認識と感情の派生がみられ、感情がなぜ生じたのか考える内面的吟味の思考により、感情は自身の看護実践と深く関わりがあると認識していた。

(2) 気にかかる現象のもととなっている事象について探究する思考過程

リフレクションの流れ及び他者との関わりや周囲の状況に対する認識と感情等の結果より、上記(1)の思考過程に続いて、気にかかる現象のもととなっている事象について探求する思考過程があった。それには他者との関わりや周囲の状況との遭遇を通して、時間をかけて多くの情報を整理し、新たな知識を用いて、気にかかる現象を新たな観点から捉え直し、それは更に思考を探求する方向へと進展させる動因となっていた。

(3) 新任期保健師の準備性や価値観・信念の変容をもたらす思考過程

新任期保健師の内面的変化の結果より、保健師の価値観・信念は、リフレクションのきっかけの現象の捉え方や他者からの意見を取り込む柔軟な考え方の基盤となっているという特徴があった。また、思考の進展により、保健師としての役割等の自覚といった価値観や信念の形成、保健師の準備性への変化がもたらされ、次のリフレクションに影響を及ぼす循環があった。

2) 新任期保健師のリフレクションにおける思考内容の特徴

(1) 新任期保健師の語りに見られたリフレクションの内容の特徴

①リフレクションのきっかけに対する認識と感情の特徴

リフレクションのきっかけを契機に生じた驚きや戸惑い等の感情を生じさせたもののもととなっているものが何であるのかを

思考することにより、保健師は、それまでの自身の考え方や傾向に向き合う特徴があった。

②他者との関わりや周囲の状況に対する認識と感情の特徴

他者との関わり通して得た安心感や嬉しさ等がなぜ生じたのかについて、それらのもととなっている気にかかっていた現象と関連づけて思考することにより、新任期保健師は、自身が担うべき立場や役割を強く感じ、実践に対する思いや考えを整理できたという特徴があった。

③新任期保健師の内面的変化の特徴

保健師の内面的変化の特徴は、実践への意欲の高まりや自信を通して、保健師としての看護実践に臨む価値観を形成していく重要な意味を持つという特徴があった。

3) リフレクションを促進した内容の特徴

新任期保健師のリフレクションを促進した内容の特徴は、リフレクションの過程の中で、繰り返し行う事実の確認や不確かな感情の吟味の過程を進展させるというものであった。それにより新任期保健師は、援助者としての自信と自覚が強化するという内面的変化が生じていた。しかしその過程では、看護実践で生じる事実の描写の整理に時間を要していた。新任期保健師のリフレクションを促すための方法は、事実の確認や不確かな感情の吟味の過程を促進させる手助けをし、保健師としての自己の実践への気づきを得ることであると示唆された。

<引用文献>

- 1) Teekman, B: EXPLORING THINKING IN NURSING PRACTICE, Journal of Advanced Nursing, 31(5), p1125 - 1135, 2000.
- 2) 上田修代、宮崎美砂子：看護実践のリフレクションに関する国内文献の検討、千

葉看護学会誌, 16(1), p61-68, 2010.

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[学会発表] (計1件)

上田修代、宮崎美砂子：地域看護実践における新任期保健師のリフレクションを促進した内容の特徴——対一の対話の分析から——、日本地域看護学会 第16回学術集会、平成25年8月、徳島県。

6. 研究代表者

上田 修代 (UEDA NOBUYO)

千葉大学・大学院看護学研究科・助教

研究者番号：40637526